



戦前って どんな雰囲気だったんでしょうか

● 中谷 慎一

国労東日本本部 調査部長



戦前ってどんな雰囲気だったんでしょうか。私は1963年の生まれです。先の大戦の終戦が1945年ですから戦争の爪痕を感じたのは上野公園にいた傷痍軍人の方々を見ては失礼ながら怖いといった感じていた思い出と、鎌倉に遊びに行ったとき山肌に掘られていた防空壕の跡くらいです。タレントのタモリさんが言う「あらたな戦前」今がそれにあたるのであれば実際に先の大戦前の時代がどんな雰囲気であったのか調べてみました。

時を遡り155年ほど前の明治時代、経済状況は「富国強兵」「殖産興業」を掲げ近代化を進め一人当たりのGDPは欧米との差を着実に縮める一方「世界大恐慌」「関東大震災」「昭和金融恐慌」などで一変、農村の困窮や欠食児童の問題が深刻化し、人々の心には不安と不満が募り、政治への不信感が高まりました。

因みに「富国強兵」という言葉は二つの要素からなり立っています「富国」資本主義経済を発展させ国の財政を豊かにする「強兵」軍備を充実させ、欧米列強に負けない武力を持つこと。

このような状況が、後の軍国主義へと繋がる土壌を作られていったようです。当時のアメリカによる対日輸出入規制などで日本の経済が苦しい状況にあったことも、国民がメディアや軍部の政策を支持した要因の一つかもしれません。また、メディアと軍部は敵対しながらも協調関係を築き、世

論を形成していったと考えられています。

そして死者総数7,500万人と言われている(軍人、民間人)戦争で大きな犠牲を払いました。その後1945年ポツダム宣言を受託し敗戦国としてGHQ占領期間中に1947年「日本国憲法」が施行されました。第二次世界大戦の経験を踏まえ、国民主権と戦争放棄・恒久平和主義を謳う日本国憲法を新たに制定した日本はアメリカ合衆国と軍事同盟を締結し西側陣営の資本主義・民主主義国家の一員として国際社会に復帰し、高度経済成長やバブル景気で世界第二位の経済大国となったがご存じのとおり、1990年台以降失われた30年「低成長期」「低所得・賃下げ」「格差拡大」と勤労国民は「貧困の連鎖」の構造が作られています。

そして現在、高市首相は施政方針演説でこれまでの氏のキャッチフレーズ「日本列島を、強く豊かに」をことすら強調し、「強い経済」を基軸に「強い外交・安全保障」と具体性には欠けるが、その本質はむすびで言っている憲法改正に関して憲法審査会の議論を進め、国会発議が早急に実現されることを期待する「挑戦しない国には未来はない」という発言ににじみ出ている。その憲法審査会の会長には高市首相側近で「創生日本」で活動していた古谷氏が就いた憲法改正の布陣といえる。そこには「現代版富国強兵」で国民を扇動し「あらたな戦前」歴史を繰り返そうとしている。